

NEWS LETTER

巻頭言

教育推進・学生支援機構 機構長 江馬 諭



「飛騨・美濃・尾張地域の新産業の牽引に必要な、マネジメント力、コミュニケーション力、協調性、創造性に富み、国際的な広い視野と実社会のニーズを踏まえた発想を身につけた人材の養成」を目的として、平成22年4月にイノベーション創出若手人材養成センターが開設され、イノベーションスキルプログラムと産学連携教育プログラムが実施されてきました。平成26年度にセンターとしての取組は終了しましたが、イノベーション創出若手人材養成プログラムとして教育推進・学生支援機構（キャリア支援部門）に引き継がれ、現在も継続しています。

平成31年度（2019年度）もイノベーションスキルプ

ログラムであるエンライトメント・レクチャー（1単位）、ビジネス英語（2単位）、アイデア・トレーニング・キャンプ（1単位）が開講されます。このプログラムは、博士後期課程に在籍している間いつでも参加できます。さらに、これらの座学を修了した学生さんは産学連携教育プログラムである学外研修（インターンシップ）に出かけることも可能です。インターンシップでは広島大学のHIRAKUプログラムから、参加費などの経済的支援が得られる場合があります。

皆さんが研究室で実験したり解析したりしている研究テーマについて、他の領域の学生さんや様々な国から留学している学生さんと意見交換しませんか。皆さんの研究テーマの意義や価値がブラッシュアップされ、今後の研究が一層楽しくなると思います。

平成30年度活動報告

教育推進・学生支援機構 特任教授 吉田 敏



「イノベーション創出若手人材養成プログラム」（略して、イノベ・プログラム、あるいは Innovae-Program）は、開講してから今年度で9年目になり（9期生）、これまでに受講したのは博士課程（DC）の院生140名、ポストドクター（PD）14名になります（9期生はDC28名、PDIは0名）。私吉田は、前任の坂口先生の後を受けて平成30年4月より専任で担当をさせて頂いています。前期には、主にスキル・プログラムである3つの授業（エンライトメント・レクチャー（EL；8回）、ビジネス英語（BE；15回、Mario先生担当）、アイデア・トレーニング・キャンプ（ITC；3日間）が4月から7月の間に行われ、それぞれとても内容の充実した授業だったと思います。年度末に修了証書が出るのは3単位以上を取ったものだけで、その場合BE+ELあるいはBE+ITCの組み合わ

せて履修できます。このスキル・プログラムの目的は、院生が今後企業を含めて社会に出て活動していくための基礎的能力（英語でプレゼンする力、研究発表する力、企業家基礎力など）を養成するためにありますが、さらに基本的には自己の意識改革のためにあると言ってもいいでしょう。つまり、どのようなキャリアパスを目指すのかを考える上での意識を変えることです。

さて、今回のスキル・プログラムのなかでも、5月に3日間行われたITCのプログラムは、参加者からの人気と評価が高く、様々な分野のDCが英語で研究発表について意見を交わし、時間をかけて発表をリファインしていく、という経験は、意識の改革の上でも非常に有効であるように思えます（左図・参加者集合写真）。今回のキャンプの様子は、動画や写真等をまとめてホームページに載せました（https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/2018_itc_report.html）。アンケート結果はこの冊子の最終ページをご覧ください。日本語でのエンライトメント・



レクチャーについては、今回留学生からの参加がかなり減りましたので、今後日本語だけのレクチャーは見直しが必要です。また、各レクチャーのビデオを撮りまして、一部日本語+英語の字幕を付けたビデオファイルの貸し出しも行いました。留学生の日本語の勉強の一助にもなることでしょう。また、広島大学HIRAKUプロジェクトと協力をして、院生の長期インターンシップの支援

も行っていきますし、院生にはそれと関連した「未来博士3分間コンペティション(3MT)」の交流イベントにも参加してもらい、多く受賞しています(今年は5名参加で3名が受賞)。プログラムの研修生になっている院生は、今年度後半と来年度にかけて長期インターンシップという学外研修を受けることになりますが、その時HIRAKUプロジェクトの一環として(旅費宿泊費等の支援あり)学外研修に参加することもできます。実際、昨年そのプロジェクトの中の3MTに

参加し企業賞を受賞した院生で、今年その企業からインターンシップの誘いがあり、旅費等先方負担で長期インターンシップに参加することになりました。また、今年から「未来博士と企業との交流会」を学内で開催し、博士課程院生の研究発表を介して企業研究者との懇親交流を目指すイベントを催します(12月初旬)。色々工夫をして改善していますので、留学生も含め多くのDCの院生が来年度も積極的にこのプログラムに参加し交流を深めるよう期待しています。(吉田)

プログラムの感想



私は修士課程の際に就職活動を行いました。専門以外の分野に対し興味が湧かず、自身の視野の狭さを痛感しました。次第に博士号取得への憧れが生まれ、また、英語力やプレゼン力、論文執筆のスキルを身に付けたい、広い視野を持ちたいと感じるようになり、博士課程への進学を決意しました。しかし、これらのスキルを今後どのように磨いていこうか考えていた時に出会ったのが、「イノベーション創出若手人材養成プログラム」です。私は迷わず、全ての講義とインターンシップに参加できるプログラム研修生を受講しました。講義では特に、「ビジネス英語」が有意義だったと感じています。英語には全く自信がなく、受講生の8割が留学生だったため、最初は講義に参加することすら怯えていましたが、ジェスチャーの仕方や、言い回し表現などを教えて頂き、プレゼンテーションを行った際も多くの学生から「面白かった」と褒めて頂きました。

講義をきっかけに、英語に対する羞恥心が和らいだのと同時に、留学生との仲を深めるきっかけにもなりました。また、学んだ知識は様々な場面で発揮できたと感じており、その後行われた学会および研究科のゼミナールで共に賞を頂き、ま

平成30年度プログラム研修生

連合農学研究科 生物資源科学専攻 博士課程1年
浅野 早知

た、「未来博士3分間コンペティション(3MT)」でのグローバルチャレンジ賞の受賞は、今後の更なる自信に繋がりました。特にこの3MTは、高校生や企業の方々、文理の異なる方々もおられる中で、自分の研究を誰にでもわかるように伝えることで、自分の研究の位置付けや意義を改めて認識することが出来ました。

今後インターンシップを行いますが、実際に異分野の世界に触れることで、自分自身に何が足りないか、社会に対して今後どのように貢献したいか、将来どのようなキャリアを築いていきたいか等を考えるきっかけとなれば幸いです。また、今後博士課程に進学し、何かアクションを起したいと考えている学生の皆さんに向け、このイノベプログラムを自信を持って勧めたいです。



(左から連合農学研究科D1の浅野さん(グローバルチャレンジ賞)、Yolaniさん(協和発酵バイオ企業賞)、工学研究科D3の尾関さん(大塚企業賞))

2018年広島大学HIRAKU「3分間コンペティション」入賞者

第7期聴講生

工学研究科電子情報システム工学専攻 博士課程3年
尾関 智恵



工学研究科に進学したのは3年前、37歳になった時でした。他学を卒業後に就職し、結婚し、出産し、子育てし、再就職した頃です。日々成長するわが子らの姿に触発され、「もっとかっこいい母さんになりたい」と思い、岐阜大学の門をたたきました。何度目かの再出発で恐縮気味でしたが、イノベーション創出若手人材養成プログラムに参加することで、情熱的な先輩方や仲間に出会い、年齢に関係なく挑戦することの重要性を再

確認しました。同時に指導教員にも誠実な指導を賜り「研究者としての教養」を今更ながら学べた気がします。そうしているうちに意識も変わり、「若者じゃないから」と遠慮してきた「未来博士3分間コンペティション」に挑戦することになりました。しどろもどろになりつつも、熱心に未来を語ったつもりです。舞台に立てただけでも光栄でしたが、その思いを受け取ってくださった上、大塚賞を賜ることができました。大塚製薬様はじめ関係者すべての方に感謝しかありません。私は、遠慮せずつかみ取ることの大切さを改めて学びました。

プログラムの感想



イノベーション創出若手人材養成プログラムの履修過程の中で、私が最も意識したことは、学生から企業人への移行段階に必要な能力を身につけることです。たとえば、ビジネス英語を利用したプレゼンテーション能力や、多分野のチームメンバーとのコミュニケーション能力などです。このような実践的で実用的な能力に関して大学で指導を受けることができれば、就職活動において自信を持って自己PRをしていけると共に、企業に入社した際にも企業内の環境に慌てずに適応していけると思います。

このプログラムでは、コース終了後に自分の希望業界のイ

第7期研修生

連合農学研究科 食品流通科学研究室 博士課程3年
李 寧 (TDSE社に内定)

インターシップに参加する機会を提供してくれます。これに参加することで、履修プログラム内で学んだことを実践できるうちに、自分の希望業界の最新動向を理解することもできます。そして就職活動を進めていく中で、自分の希望業界の決定及び自分に合う職種の決定をするという点においても、インターシップは重要な役割を果たします。また、留学生在が日本での就職を考えるうえでは、日本の企業を知るためにも意義のある経験になると思っています。

このプログラムは内容が豊富であり、有効利用すれば、非常に有意義な経験になると思っています。皆さんもプログラムに積極的に参加することで、博士課程をより充実させてください。



あらゆるモノと情報がつながるIoT時代、データが生み出す価値が世の中を変えようとしています。また、AIを活用した最適解の導出が様々な分野で進んでいます。単純作業はもろんのことながら、判断が必要な作業でさえも加速的にロボットやAIに置き換わっていくなか、人が担うべき役割は、新たな価値創造業務へとシフトしていく必要があります。では、その新たな価値創造業務を生み出す原動力たりうる人材はだれになるのでしょうか？私は、

イノベーション創出若手人材連携育成会 会長 鍋屋バイテック会社 常務取締役 丹羽 哲也

本質的には“知的格闘”をくり返した博士をはじめとした高度な研究者がその中心を担う主役であるべきだと思います。様々な業界の企業群から構成された我々イノベーション創出若手人材連携育成会は、岐阜大学のイノベーション創出若手人材養成プログラムを通じて、多様な視点と場を提供し、イノベーション人材の育成を積極的に支援してまいります。

曇りなき目で世の中の潮流を捉え、あらゆるしがらみから脱却し、新たな価値を創造する、その具体的能力を当プログラムにて養成され、社会に貢献されることを期待しております。

2019年度の予定

【募集・選抜スケジュール】※ 詳しくはそれぞれの「募集要項」をご覧ください。

	聴講生	プログラム研修生
応募資格	2019年度のD1~D3 ポストドクター (PD) ※国費留学生・社会人可	2019年度のD1~D3 博士号取得後5年以内のPD ※国費留学生・社会人は不可
応募期間	2019年1月15日(月) ~3月23日(金)	2019年1月15日(月) ~2月28日(水)
面接	なし(書類提出のみ)	あり(書類審査合格後)
受講できるプログラム	イノベーションスキル・プログラム※の少なくとも1つ	イノベーションスキル・プログラム※全て(受講必須)およびインターンシップ(1~3ヶ月あるいは3ヶ月以上)
受講期間	2019年度前期 一度履修登録すれば修了 または退学まで有効	D2・D3・PD: 2019年度のみ D1: 2019年度前期(講義等)+ 2020年度(インターンシップ)



※ エンライトメント・レクチャー、ビジネス英語、アイデア・トレーニング・キャンプ

平成30年度スキルプログラムについて

平成30年度前期のスキルプログラム受講生は、ビジネス英語が25名 (D1, 9: D2, 16), アイディア・トレーニング・キャンプ (ITC) が22名(D1, 4: D2, 18), エンライトメント・レクチャー (EL) が5名 (D1, 4: D2, 1), でした。ビジネス英語については、担当教員 (Mario先生) から最後に各受講者

に対して成績等に関して詳しいコメントが各受講者に渡されました。また、ITCについては、例年になく活発で参加人数も昨年より多くなりました。以下にアンケートに書かれた意見を紹介します。

■■ アイディア・トレーニングキャンプについてのアンケート ■■ (一部)

- 1. 全体で良かったこと :** (他分野の学生と英語で議論する機会を得られたこと, リファインの行い方をこの議論を通して学ぶことができたこと) (限られた時間の中でグループメンバーが協力して一つのプレゼンテーションを完成することができたのが良かった。母国語が異なるメンバーで意志やイメージを共有することができた) (他の分野のドクターの学生と仲良くなれたこと) (異分野の方々とお話しすることができたこと, 日本人のドクターの人と出会えたこと) (Idea training gives us a chance to exchange idea, even though we came from different major. But we can have useful thankful advice for each of us.) (I got friends who doctoral students during the Idea Training Camp. I got knowledge from their presentation.) (Firstly I learnt to refine my research theme. I was able to present before my colleagues who helped boost my confidence.) (The group discussion and the refinement of the research.) (I found that the disparity between me and other doctor students. They are learned, but I am lack of many things, especially the ideas. The best thing was that I indeed knew that I want to improve myself.) (Learn how to make a geed presentation so that other people different from my major can understand about my research theme. Got idea from different point of view.) (Group discussion and refining the presentation with group members.) (There are so many different introductions about different majors, which help us abroad our horizons.)
- 2. グループ討論で良かったこと :** (5人という少人数グループの中でも活発な議論が行われ, 自身もその輪の中で議論に加わることができたこと, グループ討論を通して課題の解決法や目標のリファインが行われていく過程を実感できた点) (伝えたいと思いは言語を超えることが分かった, コミュニケーションの本質を垣間見た) (自分の研究を英語で伝える練習にもなったのでよかった) (全員に話す機会が与えられ, 分かるまで話し合えたこと) (First, listen carefully the purpose of research. Second, take some point you don't understand. After that give some questions and advices.) (The best thing in this camp was this group discussion. During improving our topic, we talked a lot and we knew after research and we became friends.) (I had the opportunity to listen to various ideas which I added to my understanding. It provided me the opportunity to better understand each member's research.) (One had the opportunity to listen to the views of others and can gain new idea.) (I could get many new ideas from different side. And some were far from my image, but they were really interesting.) (Get new point of view regarding experiment.) (Sharing the knowledge from each person, each point of view. Discussion deeply and get good key points because of different major. Helping each other and respect each other and finally tray to solve the problems together.) (We have to focus on one topic even which is different with our research, anyway we did it.)
- 3. 改善すべきと思うこと :** (夕方ごろ一部の学生が祈祷の時間を気にしていたのが気になった, 宗教的な背景を考慮してあげる必要があると思う) (個人発表の時間は5分をしっかりと測った方がよい) (2日間の日程にならないでしょうか, 社会人ドクターだと3日にわたって休みを使うのが厳しい方もいると思う) (About ask and question part. Maybe we can request correlative major to ask or make them to some team.) (Each member's research should be refined by their group members. Food should be served on the last day of the camp.) (I think there is a party at the end of this training camp will be nice.) (I expected this idea training camp will be held like a real camp outside the campus. I think if this camp held outside all the students will become more fresh and can get new environment, thus can help spiritually.) (This is good, no need to change)